

手賀沼流域

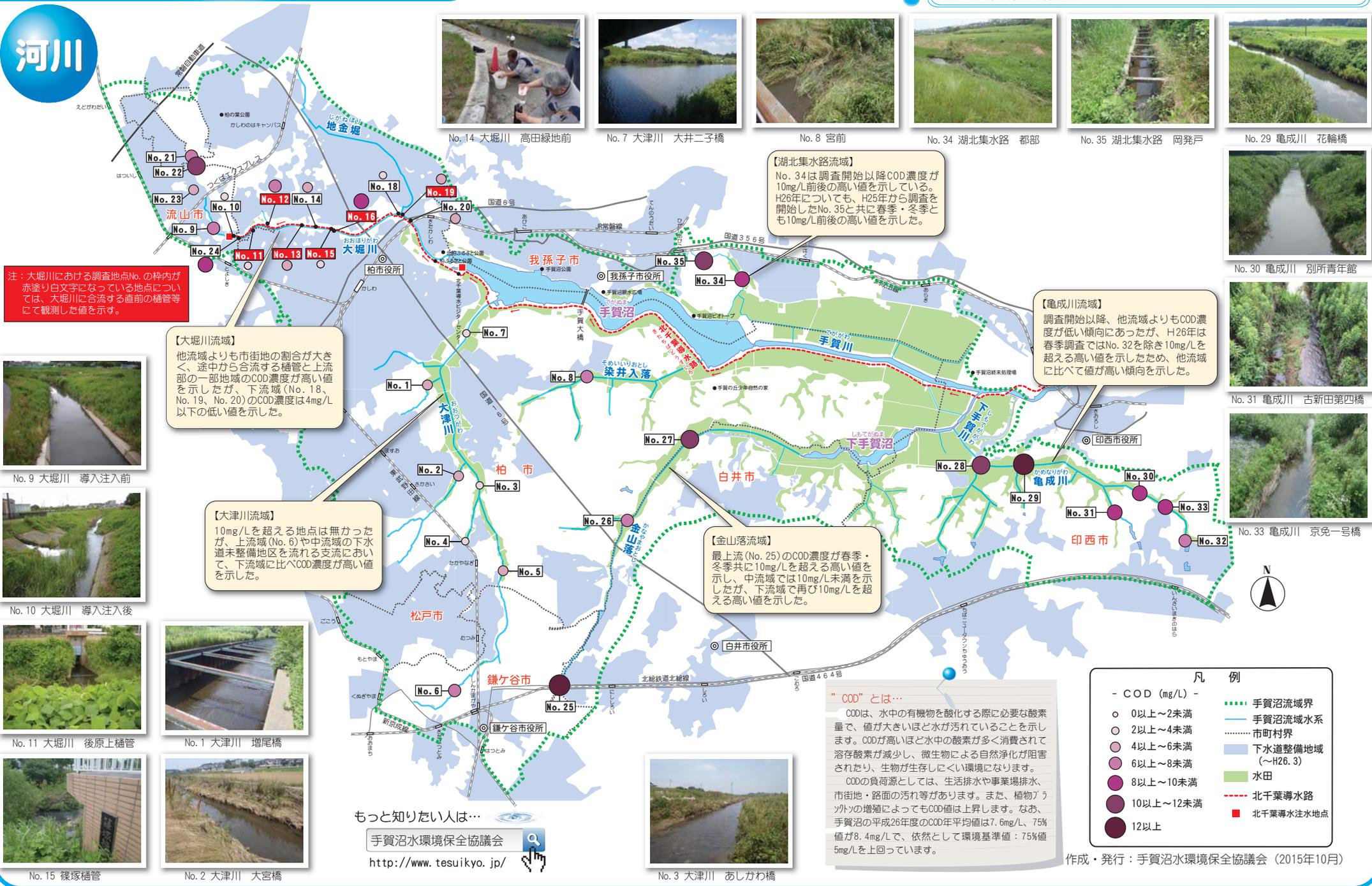
協働調査結果(平成26年度)

河川

手賀沼流域の各河川調査地点で、平成26年度に実施した春季・冬季のバックテストによるCOD濃度調査結果の平均値をまとめました。

【参加団体】

我孫子の文化を守る会、我孫子野鳥を守る会、NPO法人アルバトロスコットクラブ、印西市環境推進市民会議、エコライフあびこ、江戸川大学、NPOせつげんの街、大津川をきれいにする会、大堀川の水辺をきれいにする会、岡発戸・都部の谷津を愛する会、柏市環境保全協議会、鎌ヶ谷・大津川を清流にする会、亀成川を愛する会、沼南手賀沼ボランティア会、白井の自然を考える会、ふれあい手賀沼の会、緑水会
 柏市、我孫子市、印西市、流山市、鎌ヶ谷市、白井市、手賀沼水環境保全協議会
 ※五十音順
 千葉県(事務局:環境生活部水質保全課)



注: 大堀川における調査地点No. の枠内が赤字り白文字になっている地点については、大堀川に合流する直前の樋管等にて観測した値を示す。

【大堀川流域】
 他流域よりも市街地の割合が大きく、途中から合流する樋管と上流部の一部地域のCOD濃度が高い値を示したが、下流域(No. 18、No. 19、No. 20)のCOD濃度は4mg/L以下の低い値を示した。

【大津川流域】
 10mg/Lを超える地点は無かったが、上流域(No. 6)や中流域の下水道未整備地区を流れる支流において、下流域に比べCOD濃度が高い値を示した。

【金山落流域】
 最上流(No. 25)のCOD濃度が春季・冬季共に10mg/Lを超える高い値を示し、中流域では10mg/L未満を示したが、下流域で再び10mg/Lを超える高い値を示した。

【湖北集水路流域】
 No. 34は調査開始以降COD濃度が10mg/L前後の高い値を示している。H26年についても、H25年から調査を開始したNo. 35と共に春季・冬季とも10mg/L前後の高い値を示した。

【亀成川流域】
 調査開始以降、他流域よりもCOD濃度が低い傾向にあったが、H26年は春季調査ではNo. 32を除き10mg/Lを超える高い値を示したため、他流域に比べて値が高い傾向を示した。



No. 9 大堀川 導入注入前



No. 10 大堀川 導入注入後



No. 11 大堀川 後原上樋管



No. 15 襦塚樋管



No. 1 大津川 増尾橋



No. 2 大津川 大宮橋



No. 14 大堀川 高田緑地前



No. 7 大津川 大井二子橋



No. 8 宮前



No. 34 湖北集水路 都部



No. 35 湖北集水路 岡発戸



No. 29 亀成川 花輪橋



No. 30 亀成川 別所青年館



No. 31 亀成川 古新田第四橋



No. 33 亀成川 京免一号橋



No. 3 大津川 あしがわ橋

もっと知りたい人は...
 手賀沼水環境保全協議会
<http://www.tesuikyo.jp/>

“COD”とは...
 CODは、水中の有機物を酸化するために必要な酸素量で、値が大きいほど水が汚れていることを示します。CODが高いほど水中の酸素が多く消費されて溶存酸素が減少し、微生物による自然浄化が阻害されたり、生物が生存しにくい環境になります。CODの負荷源としては、生活排水や事業場排水、市街地・路面の汚れ等があります。また、植物プランクトンの増殖によってもCOD値は上昇します。なお、手賀沼の平成26年度のCOD年平均値は7.6mg/L、75%値が8.4mg/Lで、依然として環境基準値：75%値5mg/Lを上回っています。

凡例

- COD (mg/L) -
- 0以上~2未満
- 2以上~4未満
- 4以上~6未満
- 6以上~8未満
- 8以上~10未満
- 10以上~12未満
- 12以上
- 手賀沼流域界
- 手賀沼流域水系
- 市町村界
- 下水道整備地域 (~H26.3)
- 水田
- 北千葉導水路
- 北千葉導水路地点

作成・発行: 手賀沼水環境保全協議会 (2015年10月)